

# リーフレット「生きる力を育てるためのキーワード集」 (第4号)発行にあたって

京都教育大学 教職キャリア高度化センター  
センター長 高柳 真人

平素は、京都教育大学 教職キャリア高度化センターの取組にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

このたび当センターでは、教育改革に関する重要用語を解説するリーフレット(第4号)を発行いたしました。2021年1月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が答申されたことに伴い、今年度より本リーフレットでもその答申を読み解くための用語を取り上げております。解説をしている用語は下記の通りです。

- |        |                           |
|--------|---------------------------|
| p. 4-1 | ハイブリッド型授業                 |
| p. 4-2 | 教育DX<br>学習履歴(スタディ・ログ)     |
| p. 4-3 | 指導の個別化と学習の個性化<br>学校マネジメント |
| p. 4-4 | ウェルビーイング<br>SDGs          |

本リーフレットを京都府・京都市内の先生方にお届けすることを通して日々の教育実践の一助となることを願っております。

なお、ご関心をおもちになった内容につきましては、「文献案内」や京都教育大学「先生を究めるWeb講義」なども、あわせてご活用いただければ幸いです。

先生方の益々のご活躍とご健勝を祈念しております。

## 「生きる力」を育てるためのキーワード集（その4）



### —— 中教審答申「令和の日本型学校教育」を読み解く ——

## ハイブリッド型授業

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性として、これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを実現することが求められています。GIGA スクール構想により児童生徒1人1台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境が整えられる中、「対面授業」と「オンライン授業」を併用する授業形式を指す「ハイブリッド授業」という言葉が使われるようになりました。

「対面授業」と「オンライン授業」の、それぞれメリットやデメリットをふまえ、互いの授業形式をうまく活用・併用することが大切です。感染への不安がぬぐえない人や不登校の児童生徒、病気やけがで登校できない児童生徒にとって、オンラインで授業に参加できるのは大きなメリットです。状況に応じて個人が授業の受け方を選択することができる授業スタイルも可能となります。

**Q** ハイブリッド型授業を進める際に気を付けることは何ですか？

&

**A** オンライン授業でもできること、オンライン授業だからこそできること、オンライン授業ではできないことを確認して授業をデザインすることが求められます。加えて、通信環境や配信機器の整備状況、家庭の協力の有無など、環境による格差を考慮する必要があります。板書が見えていたか、声が聞き取りにくくなかったかなど、想定していたオンライン授業が受けられていたかを確認する手だてを考えておくことにも配慮します。

## 教育 DX

DXとは“Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)”の略称であり、日本語では「デジタル革新」や「デジタル変換」という意味になります。デジタル技術を用いることで、生活やビジネス、教育など、私たちの身の回りのあらゆることが良い方向へと変わっていくことを指す概念で、近年その加速化が図られています。これを教育現場にあてはめると、「データとデジタル技術を活用し、教育手法の変革を行うこと」に読み替えることができます。文部科学省のGIGAスクール構想もそのための施策の一つで、ここでも一人一台端末の実現など加速化が図られています。2022年1月には、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省が「教育データ利活用ロードマップ」を策定しました。そこには、教育のデジタル化のミッションとして「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を掲げています。また、そのミッションを実現するためのビジョンとして、データの①スコープ(範囲)、②品質、③組み合わせ、の拡大・充実により、教育の質を向上させるとしています。誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を、教育DXで実現しようと考えられています。

**Q** 教育DXにより学校でできるようになることは？  
&

**A** 誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べることができれば、学習にまつわる様々な場・人・モノの「組み合わせ」が広がり、学習者主体の教育が実現されます。ひいては全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を有効的に実現することができます。

## 学習履歴 (スタディ・ログ)

「学習履歴」は、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省が蓄積を進めようとしている教育データの一つです。学習行動やICT機器操作の履歴、練習問題・テスト・アンケート等の結果等の定量的データの他、成果物、主体的に学習に取り組む態度、教師の見取り等の定性的データも対象とされています。これまで何を学んできたのか、その学習体験を通してどんな意欲関心が芽生えたかということログとして残すことで可視化します。

これからの社会では、常にスキルをアップデートし、また新たな分野のスキルを身に付けられるよう自ら学び続ける力が重要とされています。「学習履歴」の活用によって、一人一人の児童生徒の状況を多面的に確認し、学習者の学びをより正確に評価したり、次のステップに向けて的確な支援を実現したりできるようになることが期待されています。

**Q** 学習履歴はどのように活用するのでしょうか？  
&

**A** 学習履歴の情報を使えば、児童生徒が自身の学習を振り返ることができます。学習履歴がデジタル化されることにより、これまで以上に細かなデータが得られると共に、将来的には人工知能(AI)で個別に最適な問題を自動的に選択して出題するAIドリルなどの学習サービスの活用も可能になることも見込まれています。

教員も子どもたち一人一人の学習の進捗状況を詳細に把握できるようになり、児童生徒に応じた最適な指導ができるようになります。また、ビッグデータとして分析すれば、つまづきやすいポイントが明らかになり、より理解度の高い指導法を生み出すことができます。さらに、これらの分析結果から、大学や研究機関ではより効果的な指導法の開発が、文部科学省や教育委員会では科学的な根拠に基づいた教育施策の立案ができるようになります。

## 指導の個別化と学習の個性化

令和3年の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では「日本型学校教育」と「個別最適な学び」がポイントとなっています。その中で「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することが重要であるとされています。「指導の個別化」とは、一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、教師は児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行います。「学習の個性化」とは、教師が児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童生徒自身が学習が最適となるよう調整することです。

Q 「指導の個別化」と「学習の個性化」は具体的にどのように進めるのでしょうか？

&

A 「指導の個別化」では、児童生徒がICT活用で得られる新たなデータなども活用して、きめ細かく学習状況を把握・分析したり、個々の児童生徒に合った多様な方法で学んだり、学習履歴（スタディ・ログ）や新たな情報手段の活用をしたりして、自らの状態を様々なデータも活用しながら把握し、自らに合った学習の進め方を考えることができるようにすることが大切です。「学習の個性化」では、児童生徒の情報の検索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信などの活動にICTを効果的に使ったり、これまでの経験を振り返り、これからのキャリアを見通したりして、児童生徒が自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるようにすることが大切です。このようなことができるように教師は指導を工夫することが大切になります。

## 学校マネジメント

学校マネジメントあるいは学校組織マネジメントは、公共事業を担う学校の活動を通じて、公教育の目標の実現とともに、児童生徒、保護者、教職員の Well-being（ウェルビーイング）を高めることを目指すものです。学校は既存の知識や技術の伝達とあわせて、価値創造や創発の場でもあることから、各教職員の臨機応変な判断と対応が欠かせません。この点で教育－学習活動は個業的な性格が強く、学校の一員としての行動つまり分業－協業的な性格が弱い面も見られます。学校マネジメントは、構成員が緩やかにつながる学校の組織的特性を踏まえ、内外環境の分析を通じた「物語」の醸成、多様な「チーム」の協働を通じた広範な視野の獲得と方策の創出、「風通しのよい」受容的で創発的なコミュニケーションの実現、次期の改善・改革に向けた評価などを柱に、学校の人的・物的・財的な資源あるいは情報や時間・空間的条件を組み合わせた、効果的な学校経営を進めることを課題にしています。

Q 学校マネジメントはもっぱら管理職の仕事でしょうか？

&

A いいえ、そうではありません。教諭を始め学校構成員は、誰もがすべての児童生徒に責任を負っています。かれらの入学から卒業に至る、学級や教科、行事や委員会活動等での関わりは、学校のカリキュラムや学校生活を作り出すものです。これらのための教職員の連携、議論や省察は、学校マネジメントの核です。また、学校は教職員の職場でもあり、安心して職務に専念できる労働環境を整えること、もってより望ましい教育－学習活動を促すことも重要です。管理職の主導や教育委員会からの支援を含めた「よりよい」学校づくりとして、学校マネジメントを捉えることができるでしょう。

## ウェルビーイング

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）」の中で「ウェルビーイング」という用語が用いられており、答申全体の基本的理念となっています。答申では OECD の定義を引いて「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力である」と説明しています。教育再生実行会議第十二次提言には、新たな学びの在り方として「一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの理念の実現を目指すことが重要である」とされています。

### Q ウェルビーイングの実現のために学校に求められることは？

&

A 一人一人の多様な幸せであるとともに、社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの実現のためには、一人一人が自分の身近なことから他者のことや社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、児童生徒自らが主体的に考え、行動をとることができるようになっていくことが大切になります。そのためには我が国の教育を学習者主体に転換していくことが求められています。

## SDGs

SDGs は、2015 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標；Sustainable Development Goals」の略称です。「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられ、「誰一人取り残さない；leave no one behind」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す 17 の国際目標です。2030 年を達成年限とし、17 の目標（ゴール）の下に、169 のターゲット、231 の指標が決められています。SDGs は先進国も含め全ての国が取り組むユニバーサルな目標となっています。

【17 の目標の項目】1 貧困をなくそう、2 飢餓をゼロに、3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、6 安全な水とトイレを世界中に、7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに、8 働きがいも経済成長も、9 産業と技術革新の基礎をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任つかう責任、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリシップで目標を達成しよう



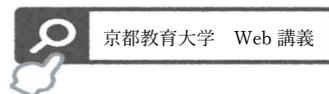
### Q SDGs を実現するために学校に求められることは？

&

A 目標 4 として「質の高い教育をみんなに」と掲げられていることや、SDGs の「誰一人取り残さない」というキーワードは学校や先生方の心に響いているのではないのでしょうか。質の高い教育を確保し機会を促進するというだけでなく、目標を達成する主体者として、目標の背後にある課題を学び、問題意識を持ち、協働して取り組んでいくことが重要です。持続可能な社会の作り手を育成する「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」は学習指導要領にも生かされています。

京都教育大学 **先生を究める Web 講義**の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/Cece/2022/03/web-lecture.html>



【発行】令和 4（2022）年 10 月 3 日発行

【編集】京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構 教職キャリア高度化センター  
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町 1 番地

【執筆】梶山直美・樋口とみ子 p.4-1 下段 市田克利・小山宏之・高柳真人 p.4-2 上段  
山下和美 p.4-2 下段 福岡拓 p.4-3 上段 榊原禎宏 p.4-3 下段  
中垣ますみ・吉川孝 p.4-4 上下段（いずれも京都教育大学教員）

